

コレクション展

みずのきの演習

2020年9月19日(土) - 12月13日(日)

金曜・土曜・日曜・祝日のみ開館

※10月23日(金) - 25日(日)は休館

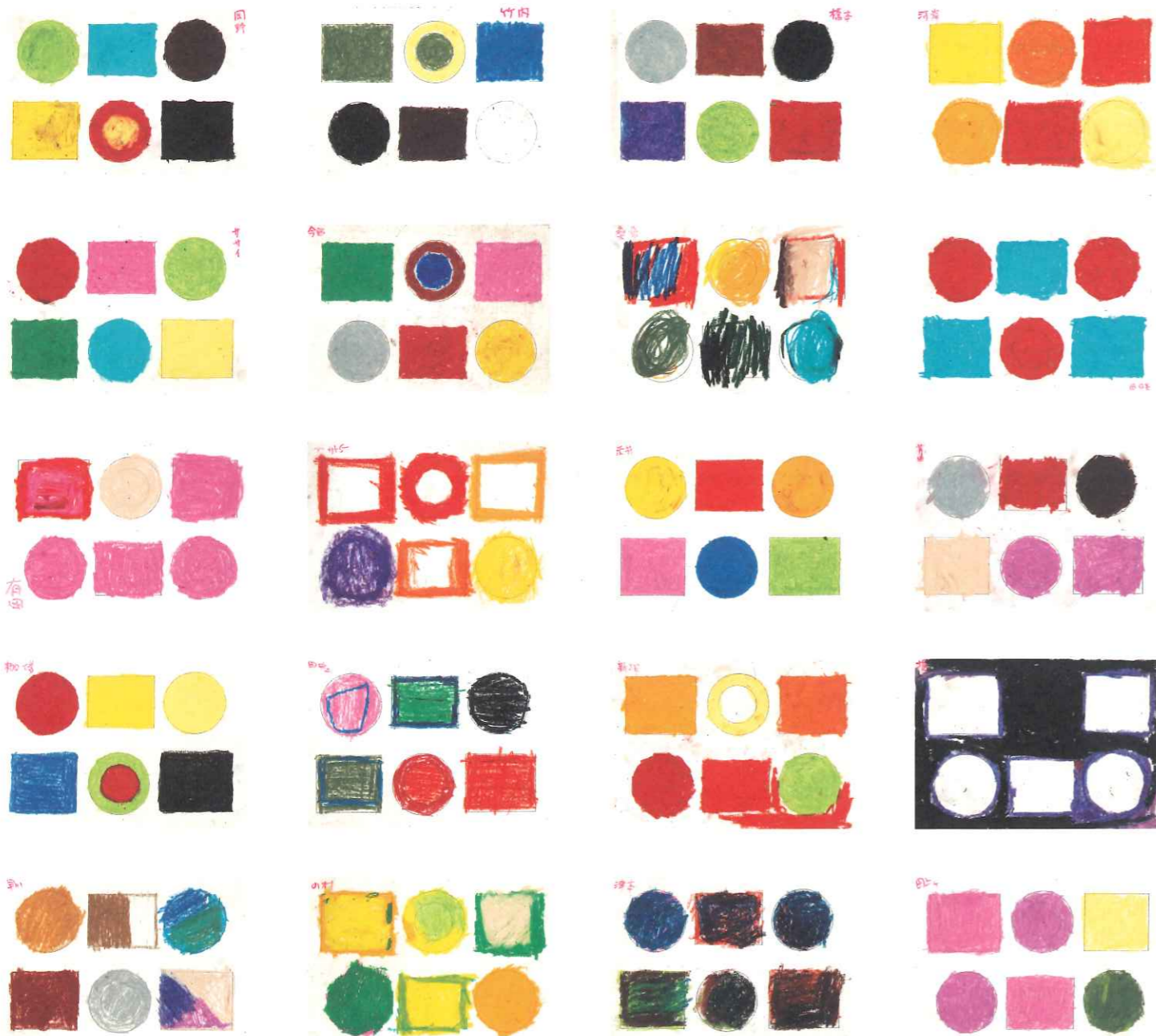
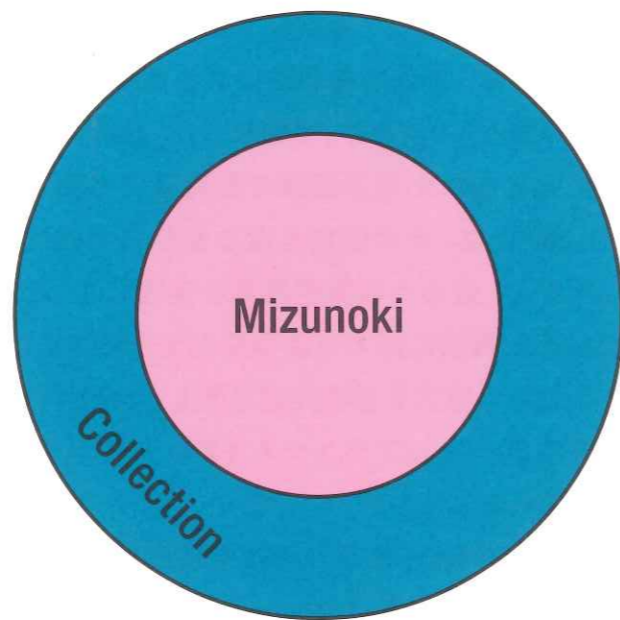
開館時間=10:00 - 18:00

料金=一般400円 / 高大生200円 / 中学生以下無料

※関西文化の日(11月14日、15日)は無料

主催=社会福祉法人松花苑 みずのき美術館

みずのき美術館



1964年、東京で初となるオリンピック・パラリンピックが開催された年、京都府亀岡市にある重度の知的障害者が暮らす入所施設「みずのき」で始まった、絵画による余暇活動。講師に迎えられた日本画家で教育者でもあった西垣籌一(1912-2000)は、その後亡くなる直前まで試行錯誤を繰り返しながら、彼らへの美術教育を実践しました。そして参加者もまた西垣に応えるようにして、現存するだけでも2万点を超える膨大な絵画作品を残し、1990年代には日本を代表するアール・ブリュット(アウトサイダー・アート)だと評されました。

本展は、2020年5月発売の所蔵作品集『みずのき美術館コレクション2』の掲載作品を一挙公開。教室での作品制作を支えた、長年にわたる演習の数々をご紹介します。

◎ 関連イベント

みずのき美術館キュレーターの奥山理子が、ゲストを招いて行なった対談の様子を、会期中にウェブサイト[www.mizunoki-museum.org]にて公開いたします。

第一回「みずのきの演習から考えること」

10月公開予定

ゲスト：菊地敦己(アートディレクター/グラフィックデザイナー)

第二回「西垣籌一の美術教育とアール・ブリュット」

11月公開予定

ゲスト：服部正(甲南大学文学部教授/美術史・芸術学)

【新型コロナウイルス感染症に対する感染予防対策について】

- 受付で体温測定、手指消毒、マスク着用のご協力と、ご来場者様同士の距離を2m程度確保いただき、37.5℃以上の発熱、咳・咽頭痛、全身倦怠感などの症状がある方は来場をお控えください。
- 団体での来館は、1組につき5名までとさせていただきます。
- お越しいただくまでの移動の際も感染予防に努めていただきますよう、ご協力お願いいたします。



みずのき美術館

〒621-0861 京都府亀岡市北町18 [JR嵯峨野(山陰)線亀岡駅南口下車徒歩8分]

TEL 0771-20-1888 FAX 0771-20-1889 www.mizunoki-museum.org

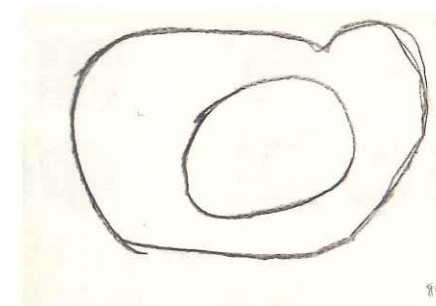
※美術館に駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。



○による色彩構成
みずのき利用者 1973年頃



ピカソをモチーフにした色面
中原安見子 1995年



造形テスト課題4
山本一男 1980年



馬
小笹逸男 1979年



玉ネギとブロックと新聞紙
吉川敏明 1980年